

暮らし向きは3年連続で悪化し、先行きも悪化見通し

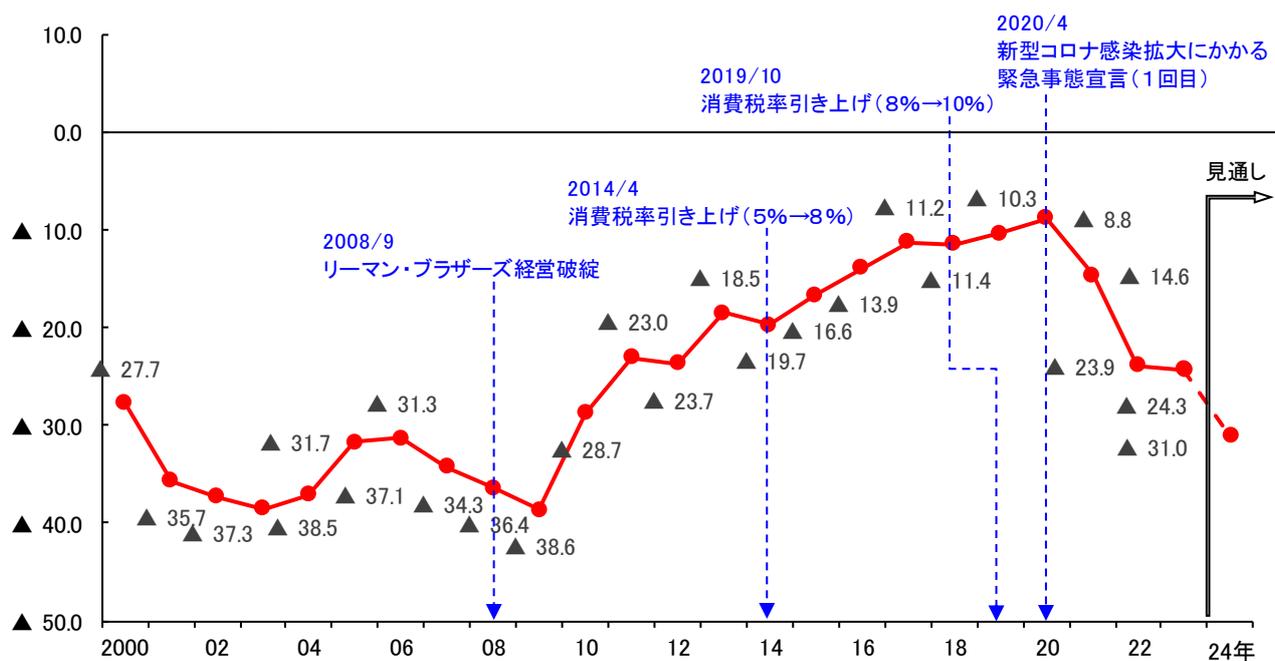
～長引く物価高が家計の重石となり暮らし向きに大きく影響～

当行では、このほど山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（2023年11月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1年前に比べて「良くなった」が4.7%、「悪くなった」が29.0%となり、「暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）」は前回調査（▲23.9）比0.4ポイント減の▲24.3と3年連続で低下した。

なお、先行き（2024年）の「暮らし向き判断DI」は、さらに6.7ポイント減の▲31.0と厳しい見通しとなっている。

図表1. 暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）の推移



【調査要領】

1. 期 間 2023年11月1日～11月17日
2. 対 象 鳥取県・島根県の在住者
3. 調査方法 当行営業店等の店頭にてwebアンケートを依頼、または配布した調査票を郵送により回収
4. 回 答 数 配布数 2,480枚、有効回答数 542（回収率 21.9%）
5. 回答者構成比 10・20代 7.0%、30代 12.7%、40代 30.4%、50代以上 49.8%

〔調査結果の概要〕

1. 暮らし向き

○足元（2023年11月）の「暮らし向き判断D I」は、前回調査（▲23.9）比0.4ポイント減の▲24.3と3年連続で低下した。先行き（2024年）は▲31.0と厳しい見通しとなっている。

2. 総収入の動向

○「総収入判断D I」は前回調査比8.8ポイント増の7.6と4年ぶりにプラスとなった。

3. 消費生活の動向

○「消費支出額判断D I」は、前回調査比4.7ポイント減の52.5と3年ぶりに低下した。

○消費生活の水準（満足度）は前回調査に比べて上昇した。

4. 今後の家計の重点

○堅実姿勢が続くなかで「貯蓄の充実」や「健康増進」などが上位となった。

○「自己啓発」や「レジャー・娯楽」といった心身への自己投資に関連した項目も増えており、必ずしも節約一辺倒ではない面もうかがえた。

5. 家計支出の動向

○この1年間で特に支出が増えた費目は「食料・外食費」が最も多く、以下、「水道・光熱費」、「交通費（ガソリン代含む）」など食料品やエネルギー価格の上昇が影響した費目が上位を占めた。一方、特に支出が減った費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。

○今後1年間で特に支出を増やしたい費目については、行動制限の解除などから「旅行・レジャー・娯楽費」が最も回答割合が多かった。一方、特に支出を減らしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「水道・光熱費」だった。

6. 貯蓄動向

○全体では「増加した」と「減少した」が拮抗する結果となった。

○貯蓄残高は『500万円未満』が5割強を占めた。

7. 雇用に対する不安

○全体として先行きに対する不安感は緩和した。

8. 物流の「2024年問題」について

○運転手の労働時間制限に伴う配達コストの上昇分を転嫁するために商品価格や配送料を引き上げることを容認する回答が半数以上を占めた。

○運転手の負担軽減に向けて輸送日数の増加や再配達回数の削減などを通じて消費者も協力すべきとする回答が7割近くに達した。

本調査の詳細版については [当行HP「山陰の経済情報」](#) をご覧ください。